

第四回日中韓三国保健大臣会合

共同声明（仮訳）

2010 年 11 月 21 日

韓国、済州島

韓国、中国、および日本の保健大臣であるわれわれは、2010 年 11 月 21 日に韓国の済州島で会談し、保健医療分野における三か国に共通の関心事について議論した。議論の内容は、新型インフルエンザ、食品安全、臨床研究、緊急時の対策と対応、および東アジア地域における保健関連ミレニアム開発目標（MDGs）の達成に関する協力であった。

1. 保健問題に関する協力

(1) 新型インフルエンザ

第 1 回日中韓保健大臣会合（以下 THMM とする）が開催された 2007 年 4 月 8 日に韓国保健福祉家族部（現在の保健福祉部）、中華人民共和国衛生部、および日本の厚生労働省（以下、「各省」という。）間で締結された新型インフルエンザへの共同対応に関する覚書、および第 2 回 THMM において締結された新型インフルエンザ対策における日中韓三国共同行動計画に基づき、われわれは緊密に力を合わせて新型インフルエンザへの共同対応に関する協力を強化し続けてきた。

われわれは、新型インフルエンザに対する予防と対応策の開発に努力し、三か国セミナーを通して協力を強化してきた。このセミナーは、新型インフルエンザに対して取られた対応と将来の計画を議論するため、2010 年の 3 月にソウルで開催された。また各省は、共通の関心事である H1N1 インフルエンザ感染例に関する疫学的情報、関連する研究室の情報、および公衆衛生対策に関する情報などを緊密に共有してきた。これによってわれわれは、昨年の新型インフルエンザの発生にうまく対処できたのである。

昨年の H1N1 ウィルスの発生を踏まえ、われわれはパンデミックに対するアジアの対応を向上させる手段として、各省間の協力を継続して行くことの重要性を再確認した。上記の協力に加えて、各省の CDC、WHO 西太平洋地域事務局、ASEAN、およびその他のアジア太平洋諸国と協力し、H5N1 などの鳥インフルエンザに関する情報を含めた情報の共有に引き続き取り組むことが必要である。われわれはまた、相互協力と交流を通して、アジアでの新型インフルエンザによって引き起こされる被害を最小限に抑え、公衆衛生を守るために努力するというコミットメントの重要性を再確認した。

(2) 食品安全

われわれは、第 2 回 THMM において、食品安全に関して協力を行うことの必要性を共有した。2009 年 11 月に各省によって締結された食品安全の協力に関する覚書に基づき、われわれは食品安全の分野で緊密に協力を行っている。

われわれは、2010 年 11 月に済州島で行われた三か国食品安全フォーラムを開催し、協力を強化してきた。

われわれは、三か国それぞれの検査の手順、方法および技術だけではなく、食品安全の関係法令、規則および義務的な基準に関する情報も交換する必要があること、およびいずれかの国で食品の安全や衛生に関連する問題が発生した場合には、速やかに他の二省に通知する必要があることについて再確認した。またわれわれは、将来の食品安全に関わる協力を行うための、情報共有と人材交流の必要性についても確認した。

(3) 臨床試験

われわれは共同して、三か国間で、医薬品の開発を促進するため臨床研究に関して協力して行くことを第 1 回の THMM において決定した。第 2 回および第 3 回の THMM において、われわれは医薬品に関する臨床試験についての三か国間の協力を引き続き強化して行く必要のあることを再確認した。

われわれは、医薬品関連の局長級会合と、実務者レベルの会合を、それぞれ 3 回開催した。これらの会合を通してわれわれは、臨床試験を含む臨床研究の分野での三か国間の協力の重要性を再確認し、三か国の臨床試験データ中の民族的要因に関する共同研究を進める方法について決定した。さらに、2008 年 4 月、2009 年 12 月、および 2010 年 9 月に、それぞれ東京、北京、およびソウルで開催された臨床試験に関する三か国共同シンポジウムを通して、臨床試験に関する協力を強化してきた。

われわれは、三省間で臨床試験に関する協力を強化すべきとの見解を共有した。

(4) 災害管理を含む緊急時の対策と対応

第 1 回 THMM の後に発表された共同声明では、災害管理を含む緊急時の対策と対応が今後協力を行うべき領域として指摘されていたが、これに基づき、災害医療管理に関する国際シンポジウムが、韓国、日本および中国におけるこの分

野の関係者が出席して 2009 年 3 月に東京で開催された。また自然災害への健康対応に関する国際会議が、2010 年 9 月に中国の成都で開催された。

それぞれの国の災害医療対応システムに関する情報と、大地震の際に得られた教訓を共有することが、これらのシンポジウムで非常に重要であると認識されたため、われわれは緊急時への備えと対応の分野が各省間での協力を行うべき領域として重要であることを再確認し、また今後の協力を考慮すべきことについて再確認した。

2. 新たな議題：保健関連ミレニアム開発目標

われわれは、加盟国が保健関連ミレニアム開発目標へ向けて前進することを促す世界保健総会決議 63.15 を完全に支持する。特にわれわれは、開発途上国における女性と子どもの健康の改善が、8 つの目標のすべてを達成する上で核心的な要素のひとつであるとの認識を共有する。

われわれはまた、第 65 回国連総会における国連首脳会合において発表された「女性と子どもの健康に関する世界戦略」を実行するために、力を合わせて取り組んで行くことを決定した。そのために、われわれは開発途上国における母子保健の改善についての三か国の努力と経験を共有するとともに、「女性と子どもの健康に関する世界戦略」のための行動に関して、三か国それぞれの計画と進捗に基づくさらなる協力の手段を探求して行くことを決定した。

3. 次回会合

(1) われわれは、2010 年 5 月の第 3 回日中韓サミットにおいて決定された「日中韓三国間協力ビジョン 2020」に言及されている保健医療分野における協力を強化することを確認し、THMM が定期的開催されること、およびすべての活動は平等、互惠、および相互利益の原則に基づいて行われ、各国の機関または個人間で現在確立されている関係に影響を与えず、また該当する場合には他の国際的な健康関連組織の活動や目標と調和して行われることが期待されているという、共通の理解を再確認した。

(2) 次回の会合は、中国で開催される予定である。